

Vascular Street Journal

新 春
特 集

新年のご挨拶

「さらに新しく、対応力ある学校法人福岡大学を目指して」

福岡大学 学長 朔 啓二郎



皆さま、あけましておめでとうございます。本年も、皆さまにとって良い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新型コロナウイルス感染症の第5波が一旦収束(終息)したかのように見えたのが、オミクロン株が追い打ちをかけてきました。この数か月の注意が重要です。皆様もできる限り行動を自粛された方が良いのではないかと思います。私は大学の皆さんにそのようにお伝えしておりましたので、この2年間は、ジェット機に乗って東京に行っておりません。会議はウェブでするのが当たり前になってしまいました。確かに以前の生活が激変したのですが、この雰囲気にも慣れてしまいました。時間と空間をワープすることができたので、過去には様々な無駄が多かったように感じます。人との交流はずいぶん少なくなりましたが、それも流れの一つですね。従って、新しい対応力が求められます。多様性の中で大学は進化するのが得意なので、前進するのみです。

さて、少子化の流れの中、1992年に205万人だった18歳人口は、2040年には88万人まで減少します。大学全入時代の到来で、結果的に入学生のレベル低下や大学間の競争が激化します。今まで通りの感覚では大学運営は難しく、新しい、そして不動の魅力が福岡大学に必要です。学生のレベルは教官のレベルと言い続けてずいぶん経ちますが、入学生や在校生のレベルを上げるには教官の教育能力・研究力・大学人としての意識のレベルアップが必要です。教職協働、すべてにおいて対応力ある大学を目指したく考えています。創立100周年(2034年)に向けてのプロジェクト、Project, Fukuoka University Centennial Anniversary 2034(プロジェクト FCA'34)がスタートします。生き生きしながらやっておりますが、今年もよろしくお祈りします。

福岡大学病院

福岡大学医学部心臓・血管内科学講座 主任教授 三浦 伸一郎



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。私が心臓・血管内科学講座の教授に就任させていただいてから5年が経過いたしました。当講座は、大学として「アカデミア」を心得として、患者中心の循環器診療に取り組んで参りました。これまで多くの先生方・医療スタッフに支えられ、講座・診療科の運営ができておりますことを厚く御礼申し上げます。

当講座では、地域医療に貢献すべく、福岡大学の3つの病院「福岡大学病院」、「福岡大学筑紫病院」、「福岡大学西新病院」にて「患者さん中心の寄り添うあたたかい医療」を循環器分野を中心に展開しております。福岡大学病院では、「循環器内科」を標榜し、虚血性心疾患、不整脈疾患、末梢血管疾患、弁膜症、心不全、心膜・心筋炎、心筋症、肺高血圧症などの心臓・血管疾患と、冠危険因子の高血圧、脂質異常症、糖尿病、痛風、肥満などの代謝性疾患に対する診療、および、循環器救急に対し24時間体制で診療を実施しています。

昨年、福岡大学病院では、ハイブリッド手術室を開設し、国内でも数少ない最新の自走式血管撮影装置「Discovery IGS730」を導入しました。ハイブリッド手術室では、手術台と血管撮影装置を組み合わせた手術室で、外科手術による治療とカテーテルによる低侵襲血管内治療を手術室と同等の空気清浄度を保ちながら同一の室内で行うことが可能です。したがって、カテーテル治療のみではできない病変に対して手術を同時に行うことができ、手術侵襲が大きい場合、カテーテル治療で代替することができます。循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、放射線技師、臨床工学技士、看護師など多職種で連携した「ハートチーム」により、経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVR)を実施して患者さんに優しい先端医療を提供しています。

さらに当科では、一般内科から循環器専門まで診療できる医師育成につとめ、多くの臨床試験を企画し、様々な先端治療や臨床エビデンスを創出し、教室全体に活気があり人を育てる環境整備に努めております。

今後も福岡大学病院の近隣の方々や医療機関のお役に立てますよう一層努力して参りますので、今年もご指導のほど宜しくお願いします。

福岡大学筑紫病院

福岡大学筑紫病院 病院長 河村 彰



新年明けましておめでとうございます。皆さまには健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

令和3年12月に福岡大学筑紫病院の病院長を拝命いたしました、河村 彰です。私の臨床における専門分野は冠動脈疾患で、炎症性サイトカインと動脈硬化についての研究で学位を取得し、福岡大学病院卒後臨床研修センターで医学教育に携わった後、令和2年4月から福岡大学筑紫病院 循環器内科の教授を拝命いたしました。この度は病院長として、これまで以上に地域から求められる医療を提供できるよう、さらなる体制の整備を図るとともに、経営改善など病院運営にも取り組んでまいります。

昨今、地域の高齢化が進む中、高齢者の尊厳保持と自立生活支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制を構築する取り組み、すなわち地域包括ケアシステムが重要視されています。一方で、入退院を繰り返す高齢心不全患者さんが大幅に増加する、心不全パンデミックの時代が到来しています。地域医療支援病院である当院では、地域医療支援センターを中心として、地域の医療機関や介護施設、訪問看護ステーション等と連携した、一体的な地域医療の提供を推進しています。また、地域における心筋梗塞、心不全、脳卒中に関する診療体制の整備を進め、地域医療支援病院の役割の一つである救急医療の充実を図っています。令和3年4月には、地域がん診療病院としての機能も充実させるため、呼吸器・乳腺センターから、診療組織として呼吸器・乳腺外科を標榜しました。

さて、未だ完全な収束をみない COVID-19の世界的な流行ですが、当院では厳密な感染症対策にもかかわらず、昨年1月に院内クラスターが発生しました。現在は完全に収束しておりますが、これまでの間、福岡大学 朔学長をはじめ、個人・企業など公私を問わず多くの方々から、マスク等の医療物資・食料・メッセージなどの心温まるご寄附や差し入れをいただきました。心より感謝申し上げます。こういった経験から、令和3年4月より新たに感染制御部を開設し、感染症指定医療機関として、さらなる体制と教育の充実を図っております。

また、昨今の病院勤務医の過重労働問題、働き方改革等を踏まえ、当院においても医師等の労働環境整備も推進しています。令和元年8月からは週休二日制を導入しており、皆様方にはご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、何卒、趣旨をご理解いただけますようお願い申し上げます。今後も、医師をはじめ、職員がより快適に安心して勤務できる病院にしたいと考えております。

今後も引き続き地域の基幹病院として、地域医療支援病院、地域がん診療病院として、地域医療へ貢献していく所存です。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

福岡大学西新病院

福岡大学西新病院 副院長 西川 宏明



新年あけましておめでとうございます。皆様には、穏やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。昨年末、我が国では一旦コロナ感染拡大が治まった状況にありましたが、海外における新型株の爆発的な流行により、国内再パンデミック発生が懸念される年越しとなりました。本年の干支であります寅(虎)は、古来より毛皮の模様から前身が夜空に輝く星と考えられ、決断力と才知の象徴として崇められてきました。皆様におかれましても、これまでの経験と知識を活かし、ある時は強い結束と決断力を誇示して、一つでも明るい話題の多い、実りある年となることを切に祈っております。

さて、早いもので福岡大学西新病院が開院して5年目を迎えようとしています。開院当初から「地域に信頼される医療の提供」を基本理念とし、地域医療と高度医療とを融合させた医療連携を目指してきました。今年度、循環器内科は三浦伸一郎院長のご指導のもと、常勤医10名体制で担当病床数を48床(含む地域包括ケア病床8床:現40床)に増床して診療を行う予定であります。当院では、2021年4月1日より心臓血管・リズムセンターを開設し、不整脈領域では森井誠士先生が診療部長として赴任しましたので、常時カテーテルアブレーションやペースメーカー植込み術等を行えるようになりました。そのため、コロナ禍ではありましたが毎月徐々に不整脈治療症例は増加し、準じて冠動脈/下肢血管治療症例も増加傾向にあります。また、2021年8月1日より同院内に地域包括ケア病床(16床)を開設しました。この病床枠が確保できたことで「急性期診療から在宅復帰まで」をシームレスに支援できる体制が整いました。この診療体制こそが、西新病院の最大の特徴(魅力)であり、今後の超高齢化時代を迎える日本医療の模範となるように、皆様のご指導を頂きながら西新病院スタッフ一同精進して参ります。今後とも、福岡大学西新病院を何卒よろしく願いいたします。